

防災教育「仲間をまもり隊」は主権者意識をどこまで強められるか

至学館大学健康科学部健康スポーツ科学科
越智 久美子

キーワード：主権者教育、防災教育、大府市消防本部、仲間をまもり隊、応急手当

1. はじめに

昨今、情報入手方法は世代によって著しい違いがあると指摘されている¹⁾。若者は新聞を読まず、テレビをみない傾向にある、他方、年代が高くなるほど、それらオールドメディアから情報を得ているという説である²⁾。ネオ・デジタルネイティブ世代と称される若者の多くは、X(旧 Twitter)やInstagram、TikTok、Snapchat、BeReal など、複数の SNS からさまざまな情報を入手しているとされる³⁾。これら若者が好む SNS は、即時的で、感覚的で、断片的であるようにみうけられる。さらに視覚的であること、数秒から数分といった短時間であること、身近なコミュニティ間でのつながりやリアリティがあることも重視されているようにみえる。

一方、情報過多時代において日本に限らず多くの国で「ニュースへの関心低下」による「ニュース離れ」が起きているというが、なかでも日本はニュースに対してもっとも「能動的な参加者が少ない国」とされる⁴⁾。これらは各種選挙における投票率低下にもリンクしているのではないかとされる。

そもそも日本でインターネット選挙運動が解禁されたのは、2013(平成 25)年の改正公職選挙法以降であるが、インターネットが選挙の情勢全体に大きな影響をおよぼした、つまり従来の選挙常識では説明のつかない投票行動が相次いだのは、改正公職選挙法から約 10 年の歳月を経た 2024(令和 6)年の東京都知事選挙(7 月)、衆議院議員選挙(10 月)、兵庫県知事選挙(11 月)で、この年こそ「ネット選挙元年」とされる⁵⁾。なかでも東京都知事選挙(2024 年 7 月)では、SNS で若者のこころを掴んだ候補者が得票数を大きく伸ばし話題になった^{注 1)}。けれども、2016(平成 28)年の 18 歳選挙権以降の国政選挙の投票率をみると、「ネット選挙元年」以降は 2024(令和 6)年の衆議院議員選挙のみになるが、若者の投票率に著しい変化はみられない(表 1 参照)⁶⁾。

表 1 2016(平成 28)年以降の衆議院議員選挙と参議院議員選挙の 10 代と 20 代と全体投票率

	衆議院議員選挙			参議院議員選挙		
	2017(平成 29)年	2021(令和 3)年	2024(令和 6)年	2016(平成 28)年	2019(令和元)年	2022(令和 4)年
10 代	40.49%	43.23%	43.06%	46.78%	32.28%	35.42%
20 代	33.85%	36.50%	—	35.60%	30.96%	33.99%
全体	53.68%	55.93%	53.85%	54.70%	48.80%	52.05%

総務省「国政選挙における年代別投票率について」(2005 年 3 月 5 日現在)。

2024 年衆議院議員選挙については読売新聞オンライン(2024 年 10 月 30 日)から作成。

※2024 年の衆議院議員選挙の 20 代投票率は、2025 年 3 月 5 日現在、総務省から発表されていない。

10 代および全体投票率は先行して発表されている。

ちなみに 2024(令和 6)年の衆議院議員選挙の至学館大学の学生の投票率は、「若者の投票率をあげ隊」(2024 年度の越智ゼミ 3 年、4 年)の調べによると、18 歳が 48.48%、19 歳が 42.30%、20 歳が 31.53%、21 歳が 48.03%、22 歳が 61.40%、23 歳以上が 52.94%、全体としては 44.06%であった。同じ選挙で至学館大学の所在する愛知県大府市の年代別投票率をみても、若者の投票率は決して高いものとはいえない(表 2 参照)。

表 2 愛知県大府市における 2025(令和 6)年衆議院議員総選挙の年代別投票率(小選挙区)

18 歳	19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	全体
54.0%	42.6%	46.5%	57.0%	59.6%	63.0%	67.1%	67.9%	54.5%	22.7%	58.5%

大府市選挙管理委員会調べ(2025 年 3 月現在)。

筆者は 18 歳選挙権以降、各種選挙のたびに学内で出会う学生に対して選挙に関する呼びかけをしたり、授業内に自治体の首長や市議会議員などを講師に招いて若者が投票することの重要性を説いてもらったりしている。さらにゼミの学生にも協力してもらい、選挙啓発のポスターの作製、掲示や、昼休みにキャンパス全体に投票呼びかけの放送を流したりもしている。また、住民票が他県にある学生には、個々に不在者投票制度を伝えたり、インターネットを使った期日前投票や不在者投票の呼びかけをしたりもしている。ゼミ生との活動は学内に留まらず、学外でも選挙啓発のチラシやポケットティッシュ等を配るほか、大府市選挙管理委員会と連携し大学内や大学の所在する大府市内数か所で期日前投票所の運営も行ってきている^{注2)}。2024(令和 6)年の衆議院議員選挙に関しては学内で「至学館大学第 1 回投票済証展」というものも実施した。それでも、この投票率であることに、若者の投票率をあげることは一筋縄ではいかないとはいえないと思われざるばかりである。

こうした若者の意識に一石を投じるために、何か策を講じることはできないかと考えはじめたのが 2021(令和 3)年のことであった。「投票に行こう」「若者の投票率をあげよう」という掛け声もさることながら、その前提となる若者の主権者としての意識を醸成するには、どうしたらいいのだろうか。若者にとってリアルなこと、地域に密着し、社会の一員である自覚を持たせるにはどうしたらいいのだろうかと考えた。そのなかで、ひとつの答えとしてかたちになってきたのが、防災教育としての「仲間をまもり隊」結成だった。

2. 「仲間をまもり隊」とは

「仲間をまもり隊」は、消防・救急・救助に関する専門的知識・技術を学ぶことによって、事故や災害等に直面した際、自ら、仲間、地域をまもることができる学生をつくりたいという目的をもって 2023(令和 5)年 4 月に立ち上げた。

防災教育として当初は自衛消防団(消防法第 8 条にもとづいた自衛消防組織)も検討したが、既存の枠組みにとらわれず、その年その年、社会や学生らが求める内容、そして至学館大学の所在する愛知県大府市という地域性を活かした内容を盛り込んでいけるようにするために、できるかぎりマニュアルや先例のないものが望ましいのではないかと考えた。

大府市消防本部・消防署の協力を得て、筆者と大府市消防本部・消防署の数名で話し合いを重ねたうえで年間の内容を決定し、2023(令和 5)年の春から学部学科、学年を問わず、全学生を対象として参加を呼び掛けた。より多くの学生に告知したいという思いやこの企画はかならず学生の学びになるという思いから至学館大学の現代教養科目である「人間力総合演習」(卒業必修科目)の一企画として公開した^{注3)}。2024(令和 6)年度の、「人間力総合演習」の企画数は 563 件^{注4)}であり(2025 年 3 月 7 日現在)、学生らは、さまざまな企画のなかから、興味のある企画を選び、卒業年次までに 60 時間以上の活動をしなければならない。

「仲間をまもり隊」の結成は、近年の自然災害の多発や、異常気象の常態化、また本学の位置する大府市の地理的要素なども考慮したものであった。4 つのプレートが交わり、活火山が集中する日本では、地震はもっとも身近な災害といえる。国土地理院によると、大府市には「大高一府断層」と「猿投一境川断層系」というふたつの活断層があることもわかっている⁷⁾。

とりわけ南海トラフ地震では至学館大学の所在する愛知県大府市も被害の影響範囲内にあり、他人事ではない^{注5)}。南海トラフ地震が発生した場合、大府市の最大震度は 6 強とされている⁸⁾。また、ひとたび巨大地震が発生すれば建築物や土木建造物の被害、広域火災の発生による被害、斜面崩壊(地すべり・がけ崩れ)の被害、地盤の液状化による被害が想定される。そして、津波が来る。至学館大学の標高は 37 メートルとされるが、大府市内には 7 つの河川があり、河川沿いには標高 0 メートルに近い低地がひろがっている地域もある。河川の氾濫による浸水被害として記憶にあたらしいのは、2000(平

成 12)年 9 月の東海集中豪雨によるものである。東海集中豪雨の際、至学館大学(愛知県大府市横根町)は浸水することなく、現在(2025 年 3 月 5 日)のハザードマップをみても洪水、土砂、津波、いずれも危険はないものとされている⁹⁾。さらに、南海トラフ地震を想定した大府市液状化マップをみても、至学館大学の周辺はその危険がないものとされている⁹⁾。だが、いうまでもなく、ハザードマップを活用しながらも、つねにその想定に疑いをもってあらたな災害をイメージすること、「想定を信じない防災教育」(諏訪 2015、164 頁)であることが不可欠である。

地震以外でも近年ひとときわ憂慮されるのは、地球温暖化によるエルニーニョ現象やラニーニャ現象を要因とする海水温の変化と、それにとまなう気温の変動である。気候変動は線状降水帯の発生¹⁰⁾や台風の激甚化¹¹⁾をまねくともいわれる。その他にも竜巻や突風の被害も想定される。愛知県には活火山がなく、県の防災対策にも火山は含まれていないが¹²⁾、学生らはさまざまな実習や合宿で妙高山(新潟県・長野県)や乗鞍岳(長野県・岐阜県)や白山(石川県・岐阜県・福井県)などといった愛知県外の活火山にでかけることもある。ありとあらゆる災害がいつどこで発生してもおかしくない日本において、すべての災害に対応できる知識や技能を身につけることは年々重要度、必要性を増しているといえよう。

小学校や中学校、高校に比べれば敷地面積が広く、それぞれの時間帯に幅広くさまざまな活動をしている大学においては、災害が発生しても、近くに教職員がいないこともあり得るだろう。至学館大学には敷地内に寮があり、2025(令和 7)年 3 月 5 日現在、49 名(大学生 40 名と高校生 9 名。定員は 72 名)の学生らが生活する場になっている。

過去の災害の経験によれば、大規模な広域災害では救助を必要とするすべての現場に救助部隊が展開することは物理的に不可能である。阪神・淡路大震災(1995 年)では地震直後にがれきの下敷きになり、自力で脱出できなくなった要救助者は約 3 万 5,000 人であったという。このうち、近隣の住民が救出したのは約 2 万 7,000 人で、警察、消防、自衛隊が救出したのは約 8,000 人であったと伝えられ

表 3 「仲間をまもり隊」の 2023(令和 5)年度の活動一覧

	日時と場所(活動時間)	内容	参加人数
1	4/27(木) 12:40~14:10 大学 1000 号館 12 講義室 (1 時間 30 分)	「仲間をまもり隊」の目的や企画全体のオリエンテーションを行う。	37 人
2	5/15(月) 14:20~17:30 大府市消防本部他 (3 時間 10 分)	大府市消防本部、知多広域消防指令センター(半田市)の施設見学および通報訓練を行う。	8 人
3	6/12(月) 16:00~17:00 大学の屋内外 (1 時間)	大学内の消防施設を使用した消火訓練、火災予防について学ぶ(屋内消火栓、消火器・住宅用火災警報器など)。	40 人
4	8/27(日) 9:00~12:00 大府市消防本部 (3 時間)	普通救命講習(成人に対する心肺蘇生法、AED の取扱い方法、異物除去要領、止血法)を受講する。	15 人
5	9/12(火) 10:00~12:00 DAIWA 消防学習センター (2 時間)	地震等の災害に関する知識を学ぶ。地震体験、避難所運営訓練を行う。	34 人
6	1/5(金) 9:00~10:30 メディアス体育館おおぶ	大府市消防出初式に参加予定だったが 2024 年 1 月 1 日の能登半島地震を受け出初式は中止になる。	—
7	2/13(火)~2/16(金) 各日 8:30~17:15 大府市消防本部 (8 時間×3 日 合計 24 時間)	応急手当普及員講習を受講する(応急手当の基礎実技、基礎医学・資機材の取扱い要領・指導技法等)。	12 人 (3 日間)
8	3/11(月)~3/15(金) 各日 8:30~17:15 大府市消防本部 (8 時間×3 日 合計 16 時間)	応急手当指導員講習を受講する(応急手当の基礎実技、基礎医学・資機材の取扱い要領・指導技法等)。	12 人 (2 日間)

2025 年 3 月 26 日作成。

※参加は学生のみとしている。たとえば、8 月 27 日の普通救命講習や 2 月 13 日から 2 月 15 日の応急手当普及員講習、3 月 11 日から 3 月 15 日の応急手当指導員講習には筆者も受講生として参加しているが、筆者の数は含めていない。また、2 月 13 日から 2 月 15 日の応急手当普及員講習には大学職員のひとりが受講生として参加しているが、表のなかの参加人数には含めていない。

表4 「仲間をまもり隊」の2024(令和6)年度の活動一覧

	日時と場所	内容	参加人数
1	5/9(木)12:40~14:20 大学1000号館12講義室(1時間30分)	「仲間をまもり隊」の目的や企画全体のオリエンテーション。	30人
2	5/23(木)12:30~12:40 大学グラウンド(10分)	2023年度に応急手当指導員資格を取得した学生が、避難訓練で応急手当の必要性を全学生・教職員に伝える。	4人
3	6月~12月(計5日間)各日9:00頃~17:00頃 名古屋大学等(8時間X5日、合計40時間)	愛知県「防災・減災カレッジ(防災人材育成研修会)」を受講して防災士の資格を取得する。講義は6月~12月の期間中、最低5日間受講する。2025年2月8日に資格取得試験を受験する。	11人 (5日間)
4	6/17(月)16:00~17:30 大学の屋内外(1時間30分)	大学内の消防施設を使用した消火訓練、火災予防について学ぶ(屋内消火栓、消火器・住宅用火災警報器など)。	35人
5	6/24(月)16:00~17:30 知多広域消防指令センター(1時間30分)	知多広域消防指令センター(半田市)で施設見学および通報訓練を行う。	8人
6	8/25(日)9:00~12:00 大府市消防本部(3時間)	普通救命講習3(小児に対する心肺蘇生法、AEDの取扱い方法、異物除去要領、止血法)を受講する。	6人
7	9/8(日)11:45~16:00 リソラ大府(4時間15分)	2023年度に応急手当指導員資格を取得した学生が、一般の方々に対するAED講習の指導員として活動する。	3人
8	9/22(日)9:00~12:00 大府市消防本部(3時間)	普通救命講習1(成人に対する心肺蘇生法、AEDの取扱い方法、異物除去要領、止血法)を受講する。	9人
9	10/3(木)12:40~14:20 大学SSC第2アリーナ(1時間30分)	2023年度に応急手当指導員資格を取得した学生が、至学館大学の学生に対して心肺蘇生とAEDの使用について講習を行う。	108人
10	11/3(日)10:00~16:30 愛三文化会館(6時間30分)	2023年度に応急手当指導員資格を取得した学生が、第5回愛知県消防連合フェアで一般の方々に対する心肺蘇生法の指導員として活動する。	5人
11	11/15(金)13:00~16:00 東京・虎ノ門ヒルズ(3時間)	第19回マニフェスト大賞表彰式において特別賞(インターネット投票1位)を受賞する。	2名
12	11/24(日)9:00~11:00 大府市消防本部(2時間+web1時間)	普通救命講習1(成人に対する心肺蘇生法、AEDの取扱い方法、異物除去要領、止血法)を受講する(+Web講習)。	10人
13	12/3(火)11:00~12:00 大府市消防本部(1時間)	第19回マニフェスト大賞での特別賞(インターネット投票1位)を受け大府市消防長を表敬訪問する。	8人
14	12/9(月)12:00~12:30 大学の各所(30分)	タンザニアのウスワ村に救急車を贈るための輸送費の募金活動を行う。企画の主催はLife Support Project。	20人
15	12/10(火)10:45~11:45 リソラ大府店内(1時間)	タンザニアのウスワ村に救急車を贈るための輸送費の募金活動を行う。主催はLife Support Project。	9人
16	12/22(日)9:00~11:00 大府市消防本部(2時間+web1時間)	普通救命講習3(小児に対する心肺蘇生法、AEDの取扱い方法、異物除去要領、止血法)を受講する(+Web講習)。	2人
17	1/5(日)8:30~11:00 リソラ大府(屋外駐車場)(2時間30分)	大府市消防出初式に参加する。	16人
18	2/5(水)~2/7(金)各日8:30~17:15 大府市消防本部(8時間X3日、合計24時間)	応急手当普及員講習を受講する(応急手当の基礎実技、基礎医学・資機材の取扱い要領・指導技法等)。	13人 (3日間)
19	2/8(土)14:00~15:00 名古屋大学減災館等(1時間)	日本防災士機構による防災士資格取得試験を受験する。	8人
20	2/13(木)~2/14(金)各日8:30~17:15 大府市消防本部(8時間X2日、合計16時間)	応急手当指導員講習を受講する(応急手当の基礎実技、基礎医学・資機材の取扱い要領・指導技法等)。	12人 (2日間)
21	3/8(土)~3/16(日)各日9:00~19:00 八戸市みなと体験学習館	2011年3月11日の東日本大震災を伝え、思いを寄せる「3.11メッセージカード展」に学生・教職員150人のメッセージカードを八戸市みなと体験学習館(青森県八戸市)に送付する。企画の主催はNPO法人3.11ツナグ。	150人

22	3/8(土)~4/13(日)各日 9:00~18:00 ライブいわきミュウじあむ	2011年3月11日の東日本大震災を伝え、思いを寄せる「3.11 メッセージカード展」に学生・教職員 150 人のメッセージカードをライブいわきミュウじあむ（福島県いわき市）に送付する。主催は NPO 法人 3.11 ツナグ。	—
23	3/14 (金) 10:00~11:00 至学館大学	令和 6 年度学位記授与式において 2024 (令和 6) 年度の「仲間をまもり隊」の活動が学長賞を受賞する。	8 人
24	3/25(火)11:00~12:00 大府市役所 1 階フロア (1 時間)	タンザニアのウスワ村に大府市の救急車を贈るという贈呈式に参加する。主催は Life Support Project。	6 人
25	3/25(火) 17:30~20:00 大府市役所 6 階レストラン (2 時間 30 分)	タンザニアのウスワ村に大府市の救急車を贈るという企画の感謝の集いに参加する。主催は Life Support Project。	5 人

2025 年 3 月 26 日作成。

※参加は学生のみとしている。筆者はすべての回に学生とともに活動をしているもので、たとえば 1 月 5 日の出初式には、学生と一緒に行進等もしている、さらに愛知県「防災・減災カレッジ(防災人材育成研修会)」を学生と一緒に受講し防災士資格取得試験も受けているものだが、表のなかの参加人数に筆者は含めていない。また、2 月 5 日から 2 月 7 日の応急手当普及員講習、2 月 13 日から 2 月 14 日の応急手当指導員講習には大学関係者(大府市在勤)がひとり参加しているが、表のなかの参加人数には含めていない。

※防災士資格取得試験については、8 名の学生が受験し 7 名が合格した。

ている¹³⁾。住民が素手でがれきから人を救い、応急手当を行い、病院に運んだという¹⁴⁾。

災害へのそなえを考える際、「自助」、「共助」、「公助」の 3 つにわけられるが、この阪神・淡路大震災(1995 年)から学ぶことは、まずは自分の身をまもる「自助」であり、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合う「共助」にあたるものの重要性である。避難訓練のように身構えて必要な機材や道具が手の届く範囲に用意されているわけではない環境下で、ひとりひとりの住民が柔軟に判断して行動しなくてはならない。

また、東日本大震災(2011 年)では、岩手県釜石市の鵜住居小学校と釜石東中学校の児童・生徒約 570 人が「避難 3 原則」(1、想定にとらわれない。2、状況下において最善をつくす。3、率先避難者になる。)を徹底した行動によって、児童・生徒のひとりのいのちも奪われることがなかったという事例も、広く伝えられているものである^{15,16)}。

至学館大学においては、キャンパスに隣接して至学館大学附属幼稚園があり、そこには 2025(令和 7)年 3 月 5 日現在、270 名(定員 276 名)の園児たちがつどっている。近隣に暮らす高齢者の方々も数少なくないことだろう。

万が一、災害が発生したら、学生は、まずは自らの身をまもり、友をまもり、園児をまもり、近隣住民をまもる人になってほしい。そのために必要となる知識や技能を盛り込んだものとして、「仲間をまもり隊」は 2023(令和 5)年度の活動を開始した。大府市消防本部・消防署(愛知県大府市)と知多広域消防指令センター(愛知県半田市)の施設見学および通報訓練、至学館大学内の消防施設を使用した消火訓練を含む火災予防実習、地震体験などといった内容とした。さらに、普通救命講習や応急手当普及員講習および応急手当指導員講習といった応急手当に関する時間を多く設けたのは、自然災害時の対応としてだけでなく、学校での事件や事故等も意識しているものである。

「仲間をまもり隊」の、2023(令和 5)年度の活動の総時間は 50 時間 40 分であり、参加学生の延べ人数は 184 人であった(表 3 参照)^{注 6)}。

翌 2024(令和 6)年度の活動は、前年の応急手当に関する資格をいかした活動が増え、あらたに「防災・減災カレッジ」(主催:あいち防災協働社会推進協議会、あいち・なごや強靱化共創センター)を受講し防災士資格(日本防災士機構)の取得も行った。「仲間をまもり隊」の、2024(令和 6)年度の活動の総時間は 131 時間 15 分であり、参加学生の延べ人数は 570 人であった(表 4 参照)^{注 7)}。

3. 「仲間をまもり隊」の活動に参加したことによって「人間力」はどう変化したか

至学館大学の教育理念は「人間力の形成」である。この「人間力」とは、「健康力」、「知的視力」、「社

表5 2024(令和6)年度の応急手当指導員講習受講学生の内訳

	男/女/未回答(合計)	7人/4人/1人(12人)
学年	1年	3人
	2年	0人
	3年	9人
	4年	0人
学科	健康スポーツ科学科	11人
	体育科学科	0人
	栄養科学科	1人
	こども・教育健康学科	0人

会力」、「自己形成力」、「当事者力」の5つのチカラで構成されるとしている。そして、これらの5つのチカラを乗じ、総合的に応用・展開することができるようになって、はじめて「人間力」がより確かなものになるとしている¹⁷⁾。

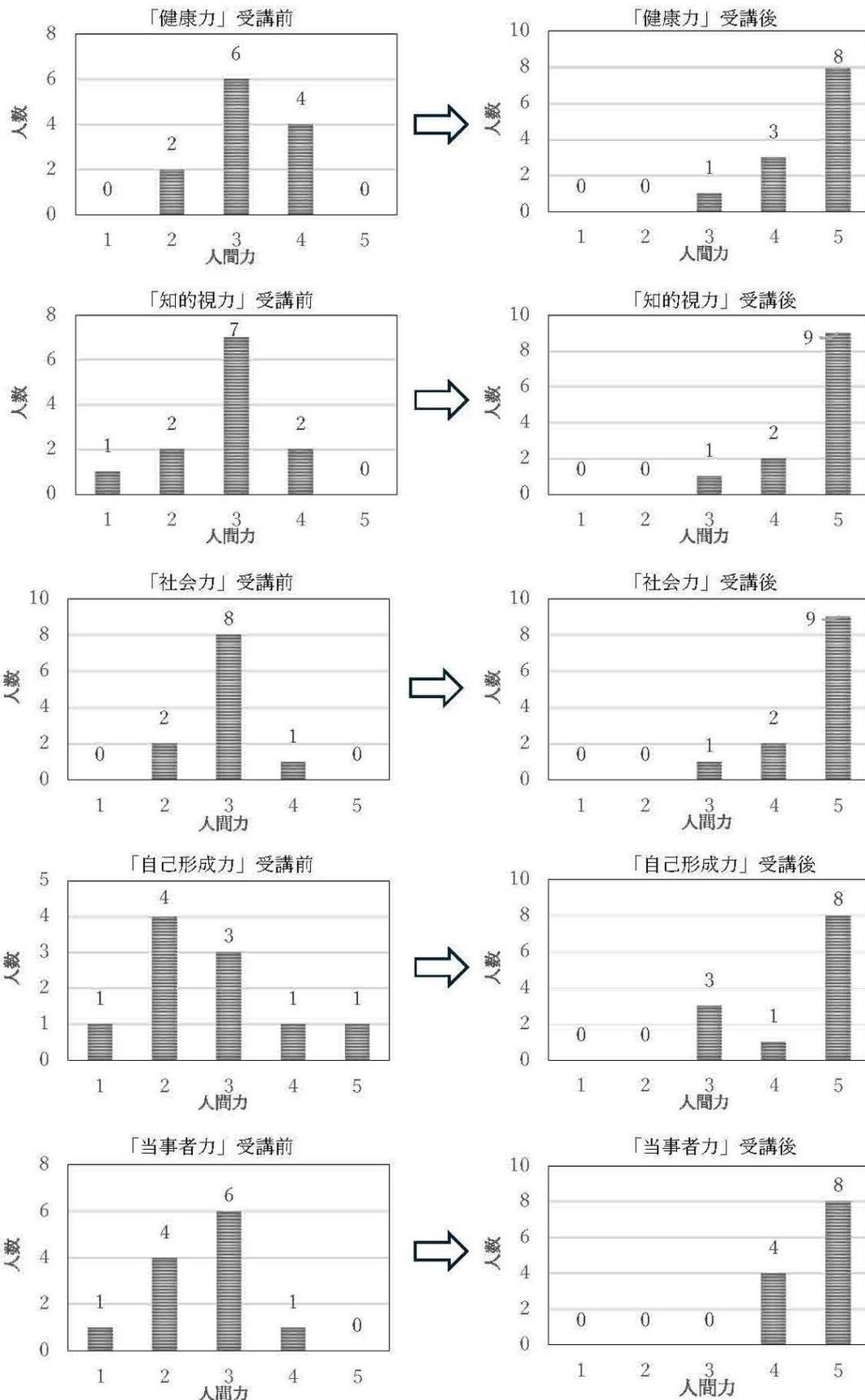
では、「仲間をまもり隊」の活動は、これらのチカラにいかに関与しているのか。なかでも応急手当普及員講習および応急手当指導員講習の受講によって、学生個々のチカラはどのように変化したか。ここでは、2024(令和6)年度の応急手当指導員講習を受講し、応急手当指導員に認定された12名の学生による自己評価を掲載する(表5、図1参照)。くわえて、応急手当指導員講習を受講したことによって、自分自身のなかで何が変わったかという自由記述回答も掲載する(表6参照)。

総務省消防庁の定める項目をもって応急手当普及員講習は合計24時間、応急手当指導員講習は合計16時間を受講するものである(表7、表8参照)。このふたつの講習の合計時間は40時間になるが、それぞれの講習時間のなかに含まれる筆記試験や実技試験のために、受講学生は各自それ以外の時間も応急手当に関する復習をしている。

「人間力」に関する自己評価は一様に向上している。もちろん知識や技能の習得に対する評価もあろうが、5つのチカラがバランスよくあがっていることから、これは得られた知識だけでなく、もっと実践的なチカラが身についたと実感しているといえるのではないかと。たとえば、人命に関わるという「責任感」、コミュニティのなかで役割を果たす「使命感」、チームで動くことが求められる「協調性」、さまざまな状況に対応するための「判断力」、こうした広範にわたるあらゆるチカラを、講習を通し身につけたという自信からくるのであろう。そして、こうした自己評価の背景には、応急手当普及員講習および応急手当指導員講習の指導者をつとめる消防職員の指導のあり方、チームで動こうという雰囲気づくりが大いに関与しているものと思われる。応急手当の必要性を十分に伝えたいと、人を助けようという受講学生らのやる気を削ぐことなく、さらにこのような場合はどうしたらいいのだろうと次から次へと想像をふくらませ、主体的に自らの能力を伸ばそう、多くの仲間とともに人をかならず助けられる人になろうと思わせてくれる講習であることが評価の高さにあらわれていると思えてならない(図1参照)。

応急手当普及員講習でも応急手当指導員講習でも座学だけでなく多くの実技の時間がもうけられているが、ここではみんなの前でくりかえし心肺蘇生法に関する実技を披露することになる。わかりやすく、よく聞こえる声で、より正確に心肺蘇生法を伝えるための練習である。最初は、自信がなく、みんなの前で実演することを恥ずかしがり、声が小さく表情もかたかった受講学生が日を重ねるごとに、声が通り、堂々と、明るい表情になっていく、そのような講習であった。つまり、ここで伸びた評価は、消防職員の講習に対する評価であるともいえる。

人を助けられるとなれば、ときに周囲からほめられたり、前向きな学びの時間が心地よく感じられたり、できることが増えていく自分自身に自信をもつことができたり、それらは自己肯定感をあげることにもなるだろう。また、いうまでもなく、これら5つのチカラは個々に分断されたものではなく、それぞれのチカラの向上が相乗的に作用し、ともにあがっていくものでもあるだろう。



2024年度、応急手当普及員及び応急手当指導員講習を受講したことによって至学館大学の「人間力」に変化があったか。受講前と受講後を1(低い)~5(高い)で自己評価。応急手当指導員認定後、12名が2025年2月14日に回答。

図1 「仲間をまもり隊」の活動は「人間力」をどう変えたか

表 6 2024(令和 6)年度の応急手当指導員講習を受講したことによってどのように変化したか

応急手当指導員講習を受講したことによって何らか変化したこと	
A	応急処置について深い知識を備えることができた。指導要領により自分自身の指導力のなさと他の方々との差を、身をもって感じました。良い経験値になりました。
B	AED の大切さを感じられたのでバイト先の AED の場所をすぐに確認して他人にまかせるのではなく、自ら動いて助けたいという気持ちになった。
C	人に指導する以上、間違った知識や情報を伝えるわけにはいかないので、改めて自分で調べ正しい知識を身に付けた。また、質問などで自分とは別の角度での見方に気が付き、そういうものと覚えていた事に理由があった事に気付かされた。
D	私が今回 5 日間の応急手当普及員講習、応急手当指導員講習を受講して、応急手当の内容はもちろん、人前で話す事の難しさやそれをいかに分かりやすく伝えるかという所がとても学びになりました。大切な人が突然倒れてしまった時、道端で知らない方が突然倒れた時、少しでも助かる確率を上げるように細かい所まで知る事ができました。優しく丁寧に、時にはおもしろさも表現して下さった消防の方たちには感謝の気持ちでいっぱいです。
E	受講前は人を助けようと思う事は少なかったが、受けてみて人を助けたいという気持ちになった。
F	今まで AED 講習を受けなければならないという当事者力が欠けていたけど、今回講習を受けて自分がやらなければいけないと思えるようになりました。今回講習を受けて本当に良かったと思いました。大事な人を守る勇気を持てるように、これからもっと自信をつけていきたいです。
G	人の前で話す力がすごく身につくと感じました。実技の講習が多い分、自信がすごくつくなと思いました。個人的に社会力やコミュニケーション力がより身につくと感じました。
H	やる前はなんとなく倒れている人がいたら助けるとしか思っていなかったが、受講したことで一連の流れを知るだけでなく、人に応急手当を教えることまでできるようになった。
I	自分にも救える命があるんだと分かった。
J	応急手当の動きの流れは少し理解できたが、なぜこの動作が大切なのか明確な理由がわかっていなかった。しかし、この講習を通して一つ一つの動作の重要性や優先順位がわかり、正しく伝えたり、教えたりできるようになった。そのため、自分自身が理解し、指導慣れたことはもちろん、多くの実技の機会を通して自信が付き、改めて応急手当を知り、普及していく重要性がわかった。これを活かして、まずは大学で講習の機会ができれば良いと感じる。
K	講習を受ける前は実際に応急手当を行わないといけない場面に出くわした時に自信まんまんに対応することができないと思ったのですが、講習を終えて応急手当を自信をもって行えるようになったり、また自分が行えるようになっただけでなく、それを他者へ指導することができるようになった。
L	自ら取得したいと思っ資格を取ったのは初めてだったのですが、自らの意志で自らの出来ることを増やしていくというのは、心地が良く成長を実感できました。

※原文のまま (2025 年 2 月 15 日回答)。

4. おわりに

「仲間をまもり隊」の活動によってあらためて学生のもつエネルギーを社会とつなぐことの意義深さを感じた。手探りですすめた防災教育というものは、じつに広範で奥深いものであった。そして、そこで養われる社会力や当事者力などは、遠回りかもしれないが、より強固な私たちで主権者としての意識に結びつくという思いを強く持つに至った。社会的な課題を身近に受け止め、個人としての取り組みはもちろん、コミュニティや自治体と連携した取り組みは、まさに主権者としての意識、行動を求められるものであった。

人をまもることができる人になるためには、まず自らに知識や技能を身につけなくてはならない。そ

表 7 応急手当普及員講習の内容(合計 24 時間)

項目		時間(分)	
基礎的な知識技能	基礎知識(講義)	120	540
	救命に必要な応急手当の基礎実技	240	
	その他の応急手当の基礎実技	180	
指導要領	基礎医学・資機材の取扱い要領・指導技法	300	780
	救命に必要な応急手当の指導要領	360	
	心肺蘇生法に関する知識の確認(筆記試験)、心肺蘇生法の指導に関する実技の評価(実技試験)を含む。		
	各種手当の組み合わせ・応用の指導要領	120	
効果測定・指導内容に関する質疑への対応		120	
合計時間		1,440	

大府市消防本部による配布資料(2025年2月)から。

表 8 応急手当指導員講習の内容(合計 16 時間)

項目		時間(分)	
基礎的な知識技能	基礎知識(講義)	60	180
	救命に必要な応急手当の基礎実技	60	
	その他の応急手当の基礎実技	60	
指導要領	基礎医学・資機材の取扱い要領・指導技法	60	660
	救命に必要な応急手当の指導要領	300	
	心肺蘇生法に関する知識の確認(筆記試験)、心肺蘇生法の指導に関する実技の評価(実技試験)を含む。		
	その他の応急手当の指導要領	180	
	各種手当の組み合わせ・応用の指導要領	120	
効果測定・指導内容に関する質疑への対応		120	
合計時間		960	

大府市消防本部による配布資料(2025年2月)から。

して、よく人を観察することが求められ、柔軟に行動するエネルギーが必要になる。これは、心肺蘇生法の手順でもある。傷病者を発見したら、身の安全を確認したうえで、傷病者に近づき、声をかけ、意識や呼吸の有無を確認する。そして、周囲の人に助けを求めるべく声をかけ、119 通報や AED の手配や大勢の人を集めるための指示を出す。救急隊が駆けつけるまでの数分間にできる限りのことを自ら判断し実行しなければ助かるいのちが助からなくなってしまうかもしれない。胸骨圧迫や人工呼吸、AED の使用と、それらをただしく実践しなければならない。

人を助けるという行為は、ひとりの人から複数の人をみるチカラになり、社会をみるチカラにもつながるはずである。ひとたび大災害が発生したら、何人もの人を助けなくてはならなくなる。より効果的に動くにはどうしたらいいのか、そのカギはやはり防災教育のなかにある。

たとえば、防災対策には災害履歴(自分たちの暮らすまちは過去にどのような災害が起きているのか)、災害環境(地形や立地条件、住宅やまちの形状はどう作用するのか)、災害リスク(これからどのような災害がどのような規模で起こりうるのか)という 3 点を知ることが不可欠とされるが、これらは地方自治と無関係ではない。ひいては国の政策にも関わってくるものである。これこそ防災意識が高まることによって主権者としての意識も高まると考える所以である。

これからの学校(大学含む)の防災教育、いわば「市民力を育む教育」(諏訪 2015, 164 頁)は、どうあ

ることが望ましいのか。それは、少なくとも国から一律に、一斉に指示される内容のものではない。海が近い学校、山のなかの学校、雪深い地域の学校、高層ビルが隣接するなかにある学校、これらの学校がひとつの同じ内容の防災訓練だけで足りるとは思えない。至学館大学においては、たとえば避難訓練の際に学生が園児を救出する練習が必要ではないか。さらに、近隣に暮らす人たちを受け入れるための避難所開設の手はずはどうか。学生と教職員だけでなく、同窓会の人や食堂で働く人やスクールバスの運転手、守衛や門衛、コンビニの従業員、キャンパスの清掃者など、大学で過ごす時間の多い人たちとともに訓練をすることも有意義ではないか。訓練は、教職員が核になったとしても、もっと学生が主体的に自らの身をまもり、周りを助ける側になれるような内容にしていくことこそ、より現実的である。

もし、年に2回あるかないかの学校(大学含む)あげての避難訓練が、既成事実づくりとしての避難訓練、タイムテーブル通りに終わらせることを至上目的としているような避難訓練、「やらされている感」でしぶしぶ動く避難訓練であるならば、せっかくの防災教育の絶好の機会をどぶに捨てるようなものである。

「仲間をまもり隊」は、いつなんどき起こるかわからない、予期することのできない事故や災害等にそなえ、さらに学びを深め、より広く行動できるよう、生きるチカラを強固なものにしていきたい。

謝辞

「仲間をまもり隊」の活動にご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします。とくに大府市消防本部・消防署の中倉謙二消防長をはじめ、浅田和貴様、深水宏一様、中野雅巳様、浅田泰教様には年間の活動そのものを支えていただきました。また、応急手当普及員講習や応急手当指導員講習では、浅井憲一様、館野千尋様、坂妻久成様、神上園昭和様をはじめとする大府市消防本部・消防署の皆様にご指導いただきました。皆様のご支援にこころより感謝いたします。

注記

注1) 東京都選挙管理委員会のHP内「若年層投票率の推移(都知事選挙)」(最終更新日、2024年7月16日)によると、2024(令和6)年の東京都知事選挙の18歳選挙権以降の投票率の推移は、2016(平成28)年は59.73%、2020(令和2)年は55.00%、2024(令和6)年は60.62%(そのうち18歳は60.58%、19歳は47.92%、20歳45.60%)であった¹⁸⁾。

注2) 至学館大学では2016(平成28)年2月に大府市と「選挙啓発に関する協定」を締結して以来、継続的に主権者教育を行ってきている。各種選挙のたびに学内外での投票の呼びかけや期日前投票所の運営も行っているが、これは18歳選挙権がスタートした2016(平成28)年の参議院議員選挙以降、すべて筆者のゼミ生(3年、4年)がつとめている。

注3) 至学館大学には現代教養科目のひとつに「人間力総合演習」というものがある。これは学生が、自ら課題を見つけ、その課題を追求しようとチャレンジすることが求められるもので、さまざまな企画のなかから興味のあるものに参加することになる。「人間力総合演習」を統括する至学館大学の人間力開発センターによる企画もあれば、教員による企画もある。そして、学生自身が自己企画として人間力開発センターに申請をして提出することも可能である。

至学館大学のすべての学生は、1年から4年までの間に累計活動時間、60時間の活動が求められている。「仲間をまもり隊」も、この「人間力総合演習」の活動時間にカウントできるものとして企画を提出しているが、参加学生のなかには、すでに「人間力総合演習」の60時間は満たされていて、それとは関係なく自らの学びのために参加したいという学生が半数以上いる。

注4) 2024(令和6)年度は、「人間力総合演習」を取りまとめている人間力開発センターによる企画が93件、さまざまな学科の教員による企画が48件、学生個々が自ら申請する自己企画が422件、合計563件である(2025年3月7日現在)。

注5) 国土交通省気象庁によると、南海トラフ地震の発生は約100年から150年の周期とされ、今後30年以内に発生する確率は80%程度と、その切迫性は高い状態にある(2025年2月7日現在)。

南海トラフ沿いでM8からM9クラスの規模の地震が発生した場合、国(内閣府、中央防災会議防災対策推進検討会議「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」)は、最悪で死者が32万3,000人、全壊・焼失建物は238万6,000棟余りにのぼると被害想定を伝えている。南海トラフ

地震の、この被害想定試算は10年余り前の2012(平成24)年であることから、2025(令和7)年現在見直しが行われ2025(令和7)年3月末を目途に公表されることになっている。

注6)「仲間をまもり隊」の2023(令和5)年度の活動時間のうち、応急手当普及員講習は、総務省消防庁の定める講習時間である合計24時間、応急手当指導員講習は16時間としている。参加した学生の人数については、応急手当普及員講習は12人×3日(合計延べ36人)、応急手当指導員講習は12人×2日(合計延べ24人)として計算している。

注7)「仲間をまもり隊」の2024(令和6)年度の活動時間のうち、愛知県の「防災・減災カレッジ(防災人材育成研修会)」(6月から12月)は、防災士資格取得試験を受講するには少なくとも5日間の受講が必要となるため、本稿では最低日数の5日分を計算している。また、講習は日によって9時00分から16時40分までであったり、9時00分から17時00分までであったり、9時30分から17時00分までであったり、学ぶ内容によってまちまちであるが、ここでは9時00分から17時00分までの1日8時間としている。

応急手当普及員講習(2025年2月5日から2月7日)は、総務省消防庁の定める講習時間である合計24時間、応急手当指導員講習(2025年2月13日から2月14日)は16時間としている。

参加した学生の人数については、応急手当普及員講習は13人×3日(合計延べ39人)、応急手当指導員講習は12人×2日(合計延べ24人)として計算している。

その他、大府市消防本部・消防署の普通救命講習(2025年11月24日と同年12月22日)は総務省消防庁のWeb講習の1時間を加算する。東日本大震災(2011年3月11日)を忘れないために東北にメッセージカードを送るといったものは、おのおのの学生が空き時間にメッセージをしたためたものだが、活動時間としてはくわえていない。また、ここでの活動人数はメッセージを書いた150人としている(展示は青森県と福島県2か所で行われる)。

文献

- 1)「若者はマスメディア情報を見ない」という誤解 虚実が同居するネットとの付き合い方(2021年7月1日)G LOBE+、<https://globe.asahi.com/article/14384088>、2025年3月5日閲覧。
- 2)衝撃！若者はもうテレビを見ない？世代間で情報収集方法が激変(2024年12月25日)DXマガジン、<https://dxmagazine.jp/news/12244/>、2025年3月5日閲覧。
- 3)Social Media Lab [2024年版]若者が今使っているSNS！Z世代向けSNSまとめ12選(2024年4月14日)Gaiax、<https://gaiax-socialmedialab.jp/post-40749/>、2025年3月5日閲覧。
- 4)世の中って全部つながっている—「ニュース離れ」が進行する現代と向き合うには 武蔵大・奥村信幸教授に聞く(2024年2月9日)news HACK、https://news.yahoo.co.jp/newshack/media_watch/newsbanare_20240209.html、2025年3月5日閲覧。
- 5)真の「ネット選挙元年」になった2024年(2024年12月6日)nippon.com、<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d01082/>、2025年3月5日閲覧。
- 6)衆議院選挙の位置 18・19歳の投票率43.06%…全体を10.79ポイント下回る(2024年10月30日)読売新聞オンライン、<https://www.yomiuri.co.jp/election/shugiin/20241030-OYT1T50230/>、2025年3月5日閲覧。
- 7)国土交通省国土地理院「活断層図(都市圏活断層図)について」https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/active_fault.html、2025年3月5日閲覧。
- 8)大府市「南海トラフ巨大地震」<https://www.city.obu.aichi.jp/kurashi/bousaibouhan/bousai/1001924/1001925/1001926.html>、2025年3月5日閲覧。
- 9)大府市「ハザードマップ」<https://www.city.obu.aichi.jp/kurashi/bousaibouhan/bousai/1001936/1001937/1001944.html>、2025年3月5日閲覧。
- 10)防災ポータルサイト SONAETERU? 『線状降水帯』はなぜ増えた?最近よく耳にする理由とは(2022年9月27日) <https://sonaeteru-pegasus.jp/linear-rainband/>、2025年3月5日閲覧。
- 11)海と地球の情報サイト JAMSTEC BASE「地球温暖化で台風がますます激甚化する!？」(2022年3月25日) <https://www.jamstec.go.jp/j/pr/topics/global-warming-affect-typhoon/>、2025年3月5日閲覧。

- 12) 愛知県「2014年御嶽噴火」<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/52768.pdf>、2025年3月5日閲覧。
- 13) 日本防災士機構(2024)防災士教本(2024年度版)。日本防災士機構、東京、p.348。
- 14) 諏訪清二(2015)防災教育の不思議なカー子ども・学校・地域を変える。岩波書店。東京。p.71。
- 15) 総務省消防庁「東日本大震災3.釜石の奇跡 - 防災危機管理 e カレッジ」<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/cat63/cat39/cat22/3.html>、2025年3月5日閲覧。
- 16) 「防災読本」出版委員会、中井仁監修(2018)教育現場の防災読本。京都大学出版会。京都。pp.320-332。
- 17) 至学館大学 HP「至学館の人間力 人間力総合演習」<https://www.sgk.ac.jp/faculty/global-citizenship/exercise/>、2025年3月5日閲覧。
- 18) 東京都選挙管理委員会 HP「若年層投票率の推移(都知事選挙)」<https://www.senkyo.metro.tokyo.lg.jp/election/nendaibetuchousa>、2025年3月5日閲覧。